うみやまかわ新聞

日本財団海洋教育促進プロジェクト 海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作事業

中間報告書

2014.10.25



離島経済新聞社

【企画趣旨】

日本は6.852島からなる島国であり、領海およびEEZ(排他的経済水域)は世界6位規模の海洋国家です。本土5島と418 島の有人離島には「海彦山彦」と呼ばれる幸があり、海の水が水蒸気となり雨として山へ降り注ぎ、川を下ってまた海に 流れる「水のつながり」があります。また、かつては海流にのって船が行き交ったことで、遠く離れた地域同士の「文化 的つながり」もみられます。

島、山、川のある島国は、地域同士が「海や山や川によって隔てられている」とも捉えられるが、別の見方をすれば「海 や山や川でつながっている」とも捉えられます。地域をつなぐ「海」「山」「川」、それらに関連する「文化」「歴史」 「経済」を知ることにより、日本の姿を見つめ直すことができます。

2014年現在、日本の人口は減少の一途を辿っており、2060年には8000万人台まで減少するというデータもあります。 この流れにのった都市一極集中の未来像では、日本各地の小規模地域は無人化してしまうものの、日本の価値は多種多様 な地域の存在によって担保されるため、地域に人が暮らして行くことが必要と考えれます。

日本各地の個性豊かな「地域」「ふるさと」が未来に残っていくためには、まず地域を支える人材の育成やそのための教 育機会が必要です。また、近未来に対応していくためには、最新技術の活用や他地域との連携経験を養う必要です。そこ で、「他者との連携」「他地域との連携」「ICTの利活用」「日本を広く捉える観点」「自らが暮らす地域への誇り」を 醸成することを目的に、本プロジェクトを企画します。

【タイトル】 うみやまかわ新聞

【コンセプト】

うみ・やま・かわのつながりを通して 自分の暮らす地域と他地域のつながりを知り 海洋国家の価値を学ぶ

【企画内容】

全国各地の地域の大人と子ども、教育機関、都市のクリエイ ターが連携し、日本をつなぐ「海」「山」「川」を知り、学 べる新聞を制作。制作過程ではICT技術を活用し、遠隔地域 の子どもたちやクリエイターとも連携を図る。

【企画を通して得られるもの】

- ◎「他者との連携」を図る経験
- ◎「他地域との連携」を図る経験
- ◎「ICTの利活用」の実践と知識習得
- ◎「日本を広く捉える観点」の習得
- ◎「自らが暮らす地域への誇り」の醸成

2014年度からスタートした『うみやまかわ新聞』(事業名称:日本財団海洋教育促進プロジェクト 海と地域のつながりを見 つける「うみやまかわ新聞」の制作事業)。インターネット技術(ICT)の利活用により、離れた地域の子どもたちや、教育機関、 都市部のクリエイターたちが連携して進める本プロジェクトも、間もなく2014年度の折り返し地点を迎えます。初年度となる今 回、参加する地域は北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県上島町・大分県中津江村・沖縄県与那国島の全国5地域。小学校6年 生~中学校2年生を中心に、5地域総勢27名の子どもたちがプロジェクトに取り組んでいます。



みんなで良い新聞をつくりましょう!

【参加地域】

今年度の『うみやまかわ新聞』には、北海道利尻島・東京都檜原村・愛媛県上島町・大分県中津江村・沖縄 県与那国島の全国5地域が参加しています。それぞれに地域ならではの「うみ・やま・かわ」に関わることが らがあり、自然、人、歴史や文化といった地域の魅力と密接に結びついています。

【参加者】

小学校6年生~中学校2年生をおもな対象に、各地域2名以上の子どもたちが参加(全地域総数:27名)。 自分が暮らす地域の魅力を、たくさんの人たちに伝えられるように、積極的にプログラムに取り組んでいます。

【北海道利尻島】





北海道北部、日本海上に浮かぶ島。 島の中心には利尻山がある。

【大分県中津江村】





周囲を山に囲まれた津江山系県立自然公園内に位置する。 明治から昭和にかけて金鉱山として栄えた 鯛生金山がある。

〞【東京都檜原村】





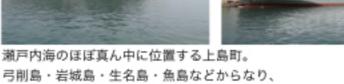
東京都唯一の村。山々に囲まれ、林業が江戸時代から続 き、水源地もある。

【愛媛県上島町】





弓削島には商船高等専門学校がある。



【沖縄県与那国島】





日本最西端の島。 ヨナグニウマやヨナグニサンなど、固有の生物も多く、 業が盛んでおもにカジキなどが水揚げされる。

【実施プログラムについて】

実施する学習プログラムについて

- ・9月~11月の期間で、現地にて計3回のプログラムを実施
- ・9月~11月の期間で、テレビ電話会議システムを活用した遠隔プログラムを、計4回実施

9月に実施した第1回プログラムでは、自分たちが暮らす地域の『個性』『特徴』をみんなで探し、地域への 共感度を高める実習をおこないました。また、全国紙や地方紙、業界紙など、さまざまな新聞を見比べて違 いや特色を話し合いながら、『メディア』について学ぶなど、これから始まる新聞づくりに向けて、座学と実 習を織り交ぜながら楽しんで学べる時間を演出。

10月に実施した第2回プログラムでは、事前にテレビ電話会議と宿題でおこなっていた紙面のコーナー割り・ 取材先選定・質問内容まとめなどをもとに、取材インタビューをおこないました。

子どもたちは緊張しつつも、事前にまとめた質問内容をしっかりと伺い、無事に取材を終えました。

【学習ツールの一部】















学習用テキストなど











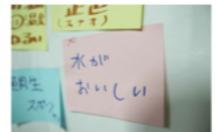






















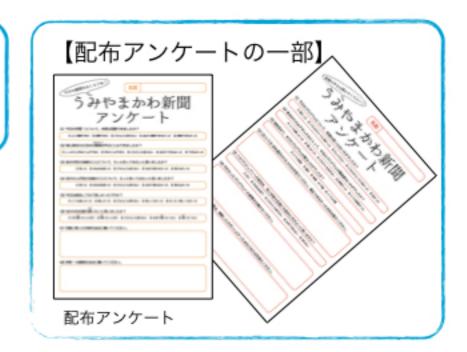






【子どもたちの声】

毎回プログラム実施後に子どもたちへアンケートを配布。 各回の感想などを聞いて、毎回ブラッシュアップをしていけるように進めています。



【9月の学習プログラムを終えた子どもたちの声】 (アンケートより抜粋)

緊張することなくできたし、大人の人ともしっかり話せたのでよかった。(東京都檜原村・小学校6年生)

日本の海が思っていたよりも広かった事がとてもびっくりした。(東京都檜原村・小学校6年生)

『メディア』を日本語で『媒体』ということがわかり、勉強になりました。(愛媛県上島町・小学校6年生)

自分が暮らす地域の大きさなどが分かり、楽しかったです。(愛媛県上島町・小学校6年生)

利尻の人や自然などを考えたことが楽しかったです。(北海道利尻島・小学校6年生)

さまざまな所から会議ができることに、すごく驚きました。(北海道利尻島・小学校6年生)

ふせんに「自分の地域の特徴」を書いて、みんなで考えていく作業では、中津江は良い所がたくさんあるな~と感じました。 (大分県中津江村・小学校6年生)

【9月の学習プログラムに立ち会った大人の声】(アンケートより抜粋)

テレビ会議がこんなに簡単に臨場感をもってできることに驚いた。(大分県中津江村)

実際に地域を見つめ直すことができ、子どもたちにとっても再発見になったと思う。(東京都檜原村)